

第49回 全国軽金属溶接技術競技会 入賞者の言葉

第1種 ティグ溶接 固定管（外径150 mm，肉厚 4 mm，水平及び鉛直固定突合せ）

優 勝 中橋 拓巳 大陽日酸㈱

準優勝 下山田 駿 大陽日酸㈱

第2種 ミグ溶接（板厚 3 mm 立向突合せ及び板厚 8 mm 横向突合せ）

優 勝 高野 拳成 ㈱日立製作所 鉄道ビジネスユニット

準優勝 福嶺 絢斗 近畿車輛㈱

優秀賞 大谷 昇 ㈱日立製作所 笠戸交通システム統括本部 笠戸事業所

優良賞 高山 将克 近畿車輛㈱

優良賞 小笠原 佳郎 日本車輛製造㈱ 豊川製作所

優良賞 伊藤 健人 赤星工業㈱

第3種 ティグ溶接（板厚 3 mm 立向突合せ及び板厚 8 mm 横向突合せ）

優 勝 良久 誠 トヨタ自動車㈱

準優勝 金久保 遼 トヨタ自動車㈱

優秀賞 井戸 佑馬 川重車両コンポ㈱

第49回 全国軽金属溶接技術競技会 入賞者の言葉

優勝の喜び

—第1種（ティグ溶接 固定管）優勝—

大陽日酸株式会社

中橋 拓巳



この度、第49回全国軽金属溶接技術競技会第1種ティグ溶接固定管の部において優勝することができ、大変嬉しく光栄に思っております。

初めての出場となった前回の第48回競技会では、放射線透過試験、曲げ試験ではほぼ満点に近かったものの、外観の結果が思わしくなく、僅差で準優勝という悔しい結果となりました。そこで今回は、まず去年の自身の作品、過去に優勝した先輩方の溶接条件などをよく調べ、私に足りない点や改善すべき点をよく考えました。しかし、先輩方の溶接条件を参考にしても納得のいく溶接結果を得ることはできず、更には外観にこだわるばかり、放射線透過試験、曲げ試験にも微小の欠陥が出るようになってしまい、思い悩む日々が続きました。そんな時、仕事の合間などに先輩が的確なアドバイスをくださり、溶接時の私の癖など自身では気付かずにいたことや、様々な溶接知識を伝授していただきました。欠陥になり得る原因を1つずつなくしていくことで溶接欠陥は徐々に減少し、改めて先輩方の偉大さを痛感させられました。さらに、溶接姿勢や溶接棒の入れ方を意識することで何度も同じビード外観に仕上げることができるようになり、悔いのない練習内容で本番に挑めるようになりました。

迎えた競技会当日、前回大会では準優勝ということもあり、今回は優勝しか有り得ないという強い重圧を感じました。しかし、この1年で弊社製品のアルミニウム溶接を多量にこなしてきたこと、競技会に向けて何度も練習を繰り返してきたことを思い出すと、不思議とその重圧は和らぎ、適度な緊張感の中で自信をもって競技に臨むことができました。それでも、いざ競技が始まると収まっていた緊張が膨れ上がってしまい、手の震えが止まりませんでした。そのままあっという間に競技は終わり、作品展示の際にようやく落ち着いて自身の作品を見ることができました。作品は理想とは程遠い外観であり、後悔で頭がいっぱいだったことだけを覚えています。しかし、去年の結果から放射線透過試験と曲げ試験には自信があったため、良い結果が出ることを祈りました。

今回の作品は、課題としていた外観での採点で去年を上

回る結果を残すことができ、放射線透過試験、曲げ試験での大幅な減点もなく、目標であった優勝を成し遂げることができました。しかし、練習通りにはいかず今までの先輩方の出場時の点数に届かなかったことから、本番でベストを尽くせない自身の弱さを再認識しました。自身の溶接技能と精神力にはまだまだ未熟な部分があることを真摯に受け止め、今後失敗が許されない製品の溶接を通じて、私自身の溶接技術の向上に努めていきたいと思っております。

最後になりましたが、今競技会に御尽力いただきました審査実行委員、溶接技術競技会事務局の皆様方、また競技会への出場の機会を与えてくださった会社関係者の方々にこの場をお借りして御礼申し上げますと共に、一般社団法人軽金属溶接協会の更なるご発展を心よりお祈り致します。

入賞の言葉

—第1種（ティグ溶接 固定管）準優勝—

大陽日酸㈱

下山田 駿



この度、第49回全国軽金属溶接技術競技会第1種ティグ溶接固定管の部において準優勝することができ、光栄に思っております。

私は大陽日酸に入社してから3年間アルミニウム溶接に携わる仕事をしてきました。軽金属溶接技術競技会への出場は今回が初めてでしたが、先輩と共に出場することとなり、戸惑いもありました。しかし先輩だからと言って負けないように、弱気にならずに優勝を目指して今回の大会に臨みました。

今回が初めての出場ということもあり、何から手を付けていいかも分からず、まずは電流値、周波数などの溶接条件の決定から取り組みました。しかし、これまで経験した仕事では対応することが少ない溶接姿勢に、慣れるのが大変で溶接条件も定まらず、なかなか納得のいく溶接ができませんでした。思うように準備を進められずにもがいていた時、序盤から悩んでいた溶接姿勢について先輩方からアドバイスをいただき、私に合った溶接姿勢を見出すことができ、次第に成果が出るようになりました。練習を重ね、納得のいく溶接結果に近づくにつれて、上位入賞することも可能なのではないかという自信をもつことができました。

しかし競技会当日には、会場の張り詰めた雰囲気呑まれ、緊張のため前日に決めていた手順をスムーズにこなせず、制限時間も迫り、焦りの中での溶接となりました。競技終了後に見た自身の作品は納得できるものではなく、練習通りの溶接が出来なかった悔しさで胸がいっぱいでした。

競技会では自分の実力を出し切ることができなかつたと感じていたため、上司から準優勝の連絡を受けたときは、信じられないという気持ちになりました。初めて出場した競技会で、準優勝できた嬉しさもありますが、それと同時に、共に出場した会社の先輩に負けてしまった悔しさもこみ上げてくる結果となりました。この結果を真摯に受け止め、再度競技会に出場する機会があれば、先輩を超える得点での優勝を目標に臨みたいと思います。

最後になりますが、競技会関係者の皆様、競技会出場の機会を与えてくださった会社関係者の方々、御指導、御声援をくださった職場の方々に心より御礼申し上げますとともに、一般社団法人軽金属溶接協会の更なるご発展を心よりお祈り致します。

優勝の喜び

—第2種（ミグ溶接 薄板/中板）優勝—

㈱日立製作所

鉄道ビジネスユニット

高野 拳成



この度、第49回全国軽金属溶接技術競技会、第2種「ミグ溶接の部」において優勝することができ、大変光栄に思います。

私は、今回の大会が2度目の出場で、前回の反省点を克服し、必ず結果を残すという強い気持ちで競技会に臨みました。

長い訓練期間の中で悩む事も多く、何度も壁にぶつかりましたが、家族の応援や職場の上司、先輩方のご指導、ご声援をいただいた事で、最後まで課題と向き合う事ができたのではないかと思います。また、共に訓練を重ねた大谷選手とも、日々の訓練を切磋琢磨しあえた事が自分のスキルアップに大きく繋がったと思います。

大会当日は、訓練と溶接の感覚が異なり、本番中に焦るところもありましたが、自分の積み重ねてきたものを信じて対応し、訓練通りの溶接条件に近づけることができました。今回の大会は悔いなく、自分の訓練の成果を発揮できたと思いい結果を待ちました。

優勝と聞いた時は、努力が報われたことに、本当に良かったと安堵の気持ちでいっぱいでした。また、今まで出場してきた先輩方の技術、技能、この大会への思いを、しっかり受け継ぎ、結果を出せたことがとても嬉しいです。自分も次回以降、出場する選手に今回の訓練で得た技術、技能をしっかりと繋げていくとともに、事業所の更なる発展と、自分の技術、技能の向上に努めていきたいと思いいます。

最後になりますが、当溶接技術競技会への出場機会をあたえてくださった上司の方々、ご指導・ご声援を下さった職場の方々心より感謝するとともに、一般社団法人軽金属溶接協会ならびに当溶接競技会関係者の益々の御発展をお祈りし、感謝の言葉とさせていただきます。

入賞の言葉

—第2種（ミグ溶接 薄板/中板）準優勝—

近畿車輛(株) 福嶺 絢斗



この度、第49回全国軽金属溶接技術競技会「第2種・ミグ溶接の部」におきまして入賞することができ、大変嬉しく光栄に思っております。

今回、社内選考で出場が決まった時には、嬉しい反面、まだ入社2年目で経験の浅い事が少し不安でもありました。また、

これまで同じ部署の先輩方が良い結果を残しており、それもプレッシャーになりました。

練習当初は溶接もそれなりの形になっていたのですが、自分では「良いスタートが切れ、徐々にレベルアップも出来ている」と思っていました。しかし、日々練習を重ねるにつれ、自分自身に伸びが感じられなくなり「本当に今回の競技会に自分が出場しても良いのか？」と不安になりました。なかなか自分の納得のいく溶接が出来ない日々が続きましたが、諸先輩方から沢山のアドバイスをもらい練習に打ち込み、少しずつですが成長する事ができました。

競技会当日は、先に出場する先輩の準備を付き添いいただいた指導者の方と一緒に手伝って見送り、自分の出番に備え準備をしました。いよいよ招集の合図が掛かり、点呼から服装・持込品のチェックと進む中、競技会が初めてだったので自分でも驚くほど緊張が全くなく、なぜか凄く溶接をするのが楽しみでした。

次に加工場所へ移動し、加工開始から順調に何事もなく終わる事が出来ました。そしていよいよ溶接です。溶接では「自分が今まで練習してきた事を全て出してやろう」と思い挑みました。中板があまり納得のいく出来ではなかったので悔しかったのですが、練習してきた事は全て出し切れたので後は結果を待つだけでした。

そして、心待ちにしていた結果通知が届き、本番では無かった凄く緊張の中で“準優勝”の文字が見えた時は、とても嬉しかったです。しかしながらその一方で“優勝には届かなかった”という悔しい気持ちも湧いてきました。

これからも今大会の結果に恥じないように、これまで以上に技量と知識の向上に務めて行きたいと思います。

業務多忙の中、出場の機会を与えていただいた会社関係者の方々、また限られた時間の中で指導やアドバイスをしてくださった諸先輩方に深く感謝すると共に、全国軽金属溶接技術競技会にご尽力を頂きました審査・実行委員会の皆様、競技会事務局に対しまして厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、(一社)軽金属溶接協会ならびに当溶接技術競技会の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

入賞の言葉

—第2種（ミグ溶接、薄板/中板）優秀賞—

(株)日立製作所

笠戸交通システム統括本部

笠戸事業所

大谷 昇



この度、第49回全国軽金属溶接技術競技会「第2種ミグ溶接の部」において優秀賞をいただくことができ、大変嬉しく光栄に思っております。

私は入社して以来アルミニウムの溶接作業に従事しており、いつか軽金属溶接協会主催の溶接技術競技会に出場したいという気持ちがありました。今回、社内選考にて初めて出場が決まった際には「絶対優勝するぞ!」という強い思いで日々

の訓練に取り組みました。

訓練では、以前競技会に出場した先輩方の溶接条件を参考に取り組みましたが、私自身が納得できる溶接結果を得ることができず、苦悩する日々が続きました。その中でも特に苦労した点はX線試験の減点を無くすことでした。外観を良くしていくことは容易でしたが、それと同時に内部欠陥を無くす溶接条件を見つけることは非常に難しいものでした。ブローホールが無くならず、苛立ちや焦りが募り、モチベーションが下がる期間がありました。しかし、そんな中で指導員をはじめ、たくさんの先輩方から励ましの言葉やアドバイスを頂き、細部の条件を一から見直すことで徐々に良い、結果へと繋がっていきました。

競技会当日は、初出場ということもあり会場独特の雰囲気と環境の違いから大変緊張したことを覚えています。溶接条件をなかなか合わすことができず所々失敗してしまい、不安や焦りを感じましたが、今まで訓練で取り組んだことを思い出し、心を落ち着かせることで最後まで競技に集中して臨むことができました。競技終了後、自身の作品を見た際は納得のいく外観ではなく悔しさもありましたが、今出せる自分の実力を発揮することができたため、X線試験にも期待しつつ結果発表を待ちたいと思いました。

後日、「優秀賞」との連絡を受けた際、優勝できなかった悔しさもありましたが、訓練時に重視していたX線試験で高得点を取ることができていたので、この結果に自信を持ち、今後に繋げていきたいと思いました。

今回、このような結果を残すことができたのも指導員をはじめ、職場の上長や先輩方、同僚からたくさんのアドバイスや激励の言葉をいただいたお陰だと本当に感謝しています。伸び悩んでいた時には根気強く指導していただき、また多忙の中、仕事の合間を縫って応援に来て下さったりと周囲の方々の支えがあったからこそこの結果だと思いま

す。今後は、更なる技術や知識の向上に努め、より品質の高い溶接をすることで会社に貢献していきたいと思いません。また、競技会で得た貴重な経験を伝えていき、後進の育成にも注力していきたいと思っています。

最後になりましたが、全国軽金属溶接技術競技会にご尽力頂きました関係者の皆様に深く感謝するとともに、今後益々のご発展をお祈り申し上げ、私の感謝の言葉とさせていただきます。

入賞の言葉

—第2種（ミグ溶接 薄板/中板） 優良賞—

近畿車輛株式会社

高山 将克



この度、第49回全国軽金属溶接技術競技会「第2種・ミグ溶接の部」において、入賞する事ができ、大変嬉しく光栄に思います。

私はこれまで鋼の被覆アーク溶接で、大阪府溶接技術コンクールおよび全国溶接技術競技会への出場経験はありましたが、全国軽金属溶接技術競技会へは今回が初めての参加となりました。会社として毎年この大会に参加している事は知っていましたが、今まで参加してきた方々とは部署が違い、まさか自分が参加する事になるとは思っていませんでした。今大会への参加が決まった時には、驚きと同時に「自分に出来るのか？」という不安の中、練習が始まった事を思い出します。

練習中は今までの経験を活かせる部分が少なく、最初は“見よう見まね”で練習をしていましたが「どこがどう溶けているのか？」イマイチ理解できていませんでした。トーチの角度や動かし方、狙い位置や溶接姿勢他“新しい事を学んでは試行錯誤を繰り返す”そんな大変な日々が続きましたが、少しずつ良くなっている事を実感出来た時は嬉しく思いました。

競技会当日の雰囲気は、何度経験しても慣れるものではなく、とても緊張していました。加工が始まり、練習時と同じミスをして焦ってしまった事を良く覚えています。溶接中は溶接条件等、練習と同じ感覚で出来たので良かったです。それも練習時に、選択した溶接機・溶材に加え、作業台や治具等を含めた溶接会場のレイアウトを出来るだけ本番に合わせて準備してくれた事にとっても感謝をしています。競技全体を通して小さなミスはあったものの、大きなミスをする事なく練習通りの流れで終える事が出来たので、とても安心しました。

結果として“4位入賞”をいただく事ができましたが、練習では良好であったX線検査の減点が思った以上に大きく、入賞できた喜びもある中、悔しさの残る結果でもありました。

他社と競う競技会は、練習・本番を通じてとても良い経験になる一方、自分の実力が“まだまだ”という事も実感します。今後は業務の中で技量を磨き、より良い車両を作れるよう努力していこうと思います。

この度は多忙の中、出場の機会を与えていただいた会社関係者の方々、指導やアドバイスをしてくださった諸先輩方に深く感謝すると共に、全国軽金属溶接技術競技会にご

尽力を頂きました審査・実行委員会の皆様、競技会事務局
に對しまして厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、(一社)軽金属溶接協会ならびに当
溶接技術競技会の今後益々のご発展を心よりお祈り申し上
げます。

入 賞 の 言 葉

—第2種 (ミグ溶接 薄板/中板) 優良賞—

日本車輛製造㈱

豊川製作所

小笠原 佳郎



この度、第49回全国軽金属
溶接技術競技会第2種ミグ溶
接部門において優良賞をいた
くことができ大変嬉しく、また
光榮に思っております。

私は今大会で2回目の出場
となりますが、前回は納得のい
く結果が出せず今回こそは良い
結果を出すぞと意気込み、大会

の参加を決意しました。

前大会からの課題は内部欠陥を減らすことでした。その
ため練習では電流値、溶接姿勢、運棒方法、トーチ角度な
どの溶接条件を細かく変更するたびに曲げ試験や断面マク
ロ試験を行い、内部の状態を確認し、溶接条件を決めてい
きました。特に運棒方法は適したものを見つけるのに時間
がかかり、行き詰まってしまいました。しかしその時に過
去の出場者の条件を参考にすることや、先輩方からアドバ
イスを頂くことでなんとか乗り越えることができました。

大会当日は会場独特の雰囲気と出場者の熱気でプレッ
シャーを感じましたが、今まで練習で取り組んできたこと
を思い出し、心を落ち着かせることで集中することができ
ました。作品の出来は練習通りとはいきませんでした。が、
大きなミスがなく終わったことで安心しました。同時に、
これが今の實力だと認識しました。後日結果を聞き、X
線試験で課題であった内部欠陥が多く出て減点が大きかつ
たのは残念でしたが「優良賞」の結果を聞き、大変嬉しく
思いました。今後はさらなる溶接技術の向上と自分の仕事
に責任を持ち、仕事に臨んでいきたいと思えます。

最後になりますが、本競技会への出場機会を与えてくだ
さった会社関係者、指導いただいた方々ならびに全国軽金
属溶接競技会の実行委員・審査委員の皆様へ厚く御礼申し
上げます。軽金属溶接協会ならびに全国軽金属溶接技術競
技会の今後の益々のご発展を祈念し、私の言葉とさせてい
ただきます。本当にありがとうございました。

入賞の言葉

—第2種（ミグ溶接 薄板/中板）優良賞—

赤星工業㈱

伊藤 健人



この度、第49回全国軽金属溶接技術競技会第2種ミグ溶接の部において優良賞をいただき誠にありがとうございました。今回社内での選考会を経て今大会に出場が決まった時、自分の力を全て出し切り、絶対入賞してやると決意していましたので、大変嬉しく光栄に思っ

ております。

半面、必要な作業手順を怠るなどのミスを犯し、より上位の賞を逃したことが悔やまれ、複雑な心境でもあります。

競技会に向けての練習では溶接電流の確立とエックス線検査による内部欠陥の有無にとっても苦戦しました。同様な苦労を経験された先輩方のアドバイスやときには厳しい指摘を受けながら、自分なりの練習、試行錯誤をしました。その結果、内部欠陥が出にくい前処理方法を見つける事や溶接電流の確立もでき、上達していくのを実感できる日々でした。

競技会当日は、自分が思っているよりも緊張することなく練習の時と同じように臨む事ができました。溶接作業に入り、捨てアークを行い練習の時と同じ溶接電流に合わせて本番に臨みました。結果、立向突合せ溶接は納得いく作品ができました。一方で、横向突合せ溶接は少しミスをしてしまい悔いが残る作品となりました。

今後、今回の競技会に向け苦労を重ねた練習や悔しい思いを含め競技会本番で学んだことを日々の仕事に活かし溶接の技能向上に努めると共に、後輩の指導育成に役立てていきたいと思えます。

今後、競技会参加の機会を与えていただけるのであれば、今回の結果に満足せず、次は優勝を目指して励みたいと思えます。

最後になりましたが、全国軽金属溶接技術競技会の運営にご尽力いただきました審査・実行委員会の皆様方、溶接技術競技会事務局また当競技会に出場する機会を与えて下さった会社関係者の方々、練習に協力していただき応援して下さった全ての方々々に心より御礼申し上げますとともに一般社団法人 軽金属溶接協会並びに溶接競技会の今後益々のご発展を心よりお祈りし、私の感謝の言葉とさせていただきます。

優勝の喜び

—第3種（ティグ溶接 薄板/中板）優勝—

トヨタ自動車㈱

良久 誠



この度、第49回軽金属溶接技術競技会「第3種ティグ溶接部門」において優勝という成績を収めることができ、大変嬉しく光栄に思っております。このような結果も、忙しい中送り出して応援して下さいました職場の皆様、指導して頂いた指導員の皆様、そして共に高め合ったト

ヨタの仲間と、多くの方々のご支援、ご協力の賜物であり感謝申し上げます。

今回、軽金属溶接競技会への初めての参加でしたが、技術面に関して、私は普段鋳物金型の肉盛作業に従事しており普段と材質の違う慣れない溶接作業のため、最初はやはり曲げやX線に苦戦しましたが、常にやり方や条件のデータを取りながら試行錯誤したり、指導員の方に相談したり見て頂いたり、仲間たちと議論して教え教え合い、その中でも競い合ったりと訓練を重ねて技術面を磨いて参りました。

しかし、技術を磨いても大会は一発勝負のため、そこで自分の実力を発揮できるかが重要になってくると思えます。私は以前別の競技会に参加した経験があり、そこでは本番で自分の実力を発揮することができずに何度も悔しい思いをしてきました。その経験から、緊張時と普段の訓練時での自身の身体、行動の変化の傾向を捉え分析し、自分自身の傾向を把握した上での“いつも通り”を訓練から意識して取り組み本番を迎えました。

大会当日、やはり大会特有の雰囲気から緊張感はありましたが、溶接場に入ってから「いつも通り」やるだけ」と言い聞かせて臨みました。その結果、溶接中も冷静に作業することができ、製品を見ても訓練通りに近い製品が完成し、一先ず安心することができました。

後日優勝の報せを頂いた時には、チームトヨタとして初入賞を目指して取り組んできた中で、仲間が前週に出場できなくなるアクシデントから全員で臨むことは叶わずでしたが、仲間の分も戦い抜き、優勝を掴むことができとても嬉しかったです。また、自分としても悔しい思いを糧にしてやってきたことが報われたと感じられました。今後も、今回の経験を糧に自分自身の更なる溶接技術の向上と、後進の育成にも邁進して参ります。

最後になりますが、本競技会に携わり運営して頂いた関係者の皆様に深く感謝申し上げます、ありがとうございました。

入賞の言葉

—第3種（ティグ溶接 薄板/中板）準優勝—

トヨタ自動車㈱

金久保 遼



この度、第49回全国軽金属溶接技術競技会「第3種ティグ溶接の部」において準優勝を頂くことができ、大変嬉しく光栄に思っております。こうして準優勝を受賞できたのは職場の皆様のご協力、ご指導を頂いた指導員、共に切磋琢磨し出場したトヨタの選手、いつも応援

してくれた家族など、多くの方々のご支援の賜物であり、心より感謝しております。

私は、前回の第48回全国軽金属溶接技術競技会に初出場し、訓練では入賞が狙える所まで技能を磨いていました。しかし、本番での緊張感からアクシデントを発生させ、溶接で大きな失敗をしてしまいました。自分の実力を本番に発揮できず、入賞も逃したことで非常に悔しい思いと一発勝負の難しさを痛感いたしました。

その経験を活かし、今大会では優勝する為に何が必要なのかを常に考えるようになりました。日々の訓練において、メンタル面の強化の為、常に本番を意識し落ち着いて実力が発揮できる様に毎回緊張感を持って取り組みました。またX線試験と曲げ試験での減点0を目指し、昨年までの溶接条件、やり方、姿勢に囚われ過ぎずに少しずつ変化させ、より良い方法を見つけられるまで試行錯誤を何度も繰り返しました。こうしてX線試験と曲げ試験に強い条件と自分に合った良い方法を見つけてから外観試験も仕上げていき、万全の状態で大会を迎えました。

大会当日は朝から緊張していましたが、溶接場に入ってからはいつも通りに落ち着いて溶接でき、自分の実力を全て出し切ったので非常に清々しい気持ちで、目標だった優勝が現実になったのではないかと期待していました。

結果を頂いた時は準優勝だったので悔しい気持ちもありましたが、同時に優勝したのが共に切磋琢磨して溶接技能を高め合ったトヨタの良久選手だったことで、喜びの気持ちが強くなりました。トヨタとして良久選手の優勝と私の準優勝の成績は非常に嬉しく、これまで挑戦してこられた先輩方の技能への拘りや継承があったからこそ、ここまで私たちが成長出来たことに心より感謝しております。また今後は指導者として後進育成に全力で取り組みたいと思います。

最後になりますが、全国軽金属溶接技術競技会を開催して頂きました軽金属溶接協会の皆様、運営して頂きました関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

入賞の言葉

—第3種（ティグ溶接 薄板/中板）優秀賞—

川重車両コンポ㈱

井戸 佑馬



この度、第49回全国軽金属溶接技術競技会第3種ティグ溶接部門において、優秀賞をいただくことができ大変嬉しく光栄に思っております。

これまで私は大会に3回出場しましたが、思うような結果を残すことができず、悔しい思いを抱いていました。挽回する気持ちで4回目の出場に臨みましたが、練習の時には扱っている溶接条件が本当に正しいのか迷走する時期もありました。特に内部欠陥が多くみられ、苦悩する日々が続きました。改善のために過去出場されていた先輩方からのアドバイスや、溶接指導して下さったコーチの指導を頂き、自分なりに溶接条件を度々変えながら練習に打ち込みました。しかし、中々思うように内部欠陥が減らず、X線試験の結果が良くならない現状に苛立ちや焦りが募りました。ただその中でもあきらめず、溶接機の設定や、トーチ角度、トーチのスピード、運棒を入れるタイミングと角度、母材の加工処理の仕方などすべて見直した結果、自分なりに満足のいく条件を見つけることが出来ました。元々、ビード外観には自信があったので競技会当日に練習通りの溶接が出来れば、上位を狙えるのではないかと自信をもてる準備ができました。

競技会当日、私は4回目の出場であったこともあり、競技中に緊張することも少なく、楽しみながら競技に臨むことが出来ました。競技中は、過去に出場した時の失敗を思い出しながら取り組み、自分の中で手応えのある作品を造れた実感があり結果に期待を持っていました。結果としては優秀賞と優勝には届かず悔しい思いはありましたが、今回の大会でようやく自分の力を発揮することができて嬉しく思っています。一概に私一人の力で掴めた結果ではないと思っています。ご指導して下さった指導員の方々、現場の仕事がある中で練習時間を作ってく下さった職場の上司、先輩や同僚の方々、仕事の合間を縫って応援して下さった皆様には、心から感謝しています。今回の大会を通じて培った知識、技能を仕事に活かし、より良い製品造りに尽力していこうと思っています。

最後になりますが、軽金属溶接協会ならびに当溶接技術競技会の今後のご発展を祈願し、私の感謝の言葉とさせていただきます。